

魂が震えた！  
ふるさとCMで魅力伝える

「ふるさとCM大賞inIWATE2022」(岩手朝日テレビ主催)が1月3日に放送され、くずまきDMO若者高校生部会が制作したCMが発表されました。「葛巻魂がここにある」と題した作品は、葛巻神楽に打ち込む郷土芸能部員がその理由を「魂が震えたから」と表現し、地域の伝統芸能を町の魅力の一つとして紹介。入賞は逃しましたが審査員からは「葛巻パワーが一瞬で伝わってくる」「葛巻の伝統芸能をもっと知りたくなる」と評価されました。

CMは岩手朝日テレビで年30回放送されるほか、くずまきテレビや町のYouTubeチャンネルでもご覧いただけます。



CMの制作に関わった皆さん

▶CMはQRコードからご覧いただけます (YouTube)



受験生を町が支援  
町の送迎で大学共通テストへ



教職員に見送られてバスに乗り込む生徒

1月14日と15日の2日間、岩手大学など県内7会場で行われた大学入学共通テストが行われ、葛巻高校から25人の生徒が受験しました。

町と葛巻高校教育振興協議会は、受験生が安心して試験に臨むことと、保護者の送迎負担が軽減されるようにと、例年町のバスで受験生を盛岡市まで送迎しています。試験前日の13日には、2泊3日の荷物を抱えた生徒たちがバスに乗り込み、教職員のみなさんが「忘れ物はないか」「頑張って」などと声を掛けながら見送っていました。

葛巻高校生の進路達成を、今後も町を挙げて応援していきます。

喜納小晴さん(2年)は、本町の姉妹村である沖縄県北中城村からの山村留学生です。「異なる環境に身を置き成長したい」と葛巻高校に進学しました。入学当初は自分の方言が気になったり、急に寂しくなり帰りがたくなったこともあったといいます。そんな時、山村留学生はみんな同じ思いであると知り、寄宿舎で励まし合って乗り越えてきました。

現在は「沖縄から来た子?」と町民から気軽に声を掛けられることに喜びを感じているそうで、小晴さんは「葛巻の人は、自分の町の良いところを自信を持って紹介していることが素晴らしい」と町の魅力を話してくれました。



喜納小晴さん(2年)  
沖縄県北中城村  
北中城中学校出身

成長を感じる留学生生活  
姉妹村から山村留学

高校生平和大使に  
震災と平和伝える

小晴さんは令和4年5月から、核兵器廃絶を世界に訴える「第25代高校生平和大使」を務めています。大使は全国からの応募約600人の中から31人が選ばれました。(岩手県からは2人)

12月には「東京行動」として国会や外務省、各国大使館などを訪問し、平和大使の活動を発表したり意見交換を行うなど全国の仲間と精力的に平和運動を展開しました。小晴さんは「岩手に来て、自分が東日本大震災について実は良く知らないことに気付いた。岩手県の平和大使として、他県の人や次の世代に



平和運動でジャマイカ大使館を訪問した小晴さん

震災や平和について伝えられるよう、もっと学びたい」と力強く話していました。



会話が弾む寄宿舎の仲間との夕食

留学生生活最後の1年  
さらに自身の成長を

洋服を作るのが得意だという小晴さん。寄宿舎にミシンを持ち込んで服や小物を製作しており、将来はファッションデザイナーになりたいと夢を語ります。新年度を間近に「今までたくさんの経験をさせていただいたが、自分のことで精一杯だったが、残り1年は、小さくても町や自分以外の誰かのためにできることを見つけて取り組み、自分自身ももっと成長したい」と山村留学の最後の1年にさらなる成長を誓っていました。

先輩への愛ある予餞会  
今、1、2年生は1月27日に開催する予餞会の準備に取り組んでいます。生徒会3大行事の一つである予餞会は、卒業前に良い思い出を3年生に届けるために1、2年生がさまざまな出し物を作ります。本番までの期間にクラス全体で練習や制作をします。息のあったダンスや3年生との思い出のムービーを制作するなど内容は多種多様です。

さらに、有志発表もあります。まるでプロのようなダンスをする人もいたり、美しい歌声で生徒を魅了する人もいたり、お笑いで大爆笑をかわさう人もいたりします。楽しく笑ったあとは、3年生の3年間を振り返るムービーを流します。今までの思い出や過去の担任の先生方からの

高校生記者レポート

松下尚憲(2年)  
凍てつくような寒さも毛布抜きで耐え、寒さも消えるくらいのパワーで頑張っています!



クラスで出し物の練習をする生徒たち

メッセージなど、非常に感動します。最後はお見送り感謝の気持ちを伝えます。予餞会のお楽しみポイントには他にもあり、それぞれの部活動で先輩方に向けたポスターを作ります。クリエイティブで趣向を凝らした作品が多く、とても面白いです。このように、葛巻高校では愛ある予餞会で先輩方を送り出します。



「サンタが家にやってくる」に参加した葛巻生(前列)

町青年会と地域を元気に  
12月24日、町青年連合協議会(桂川いずみ会長)が主催する事業「サンタが家にやってくる」に、葛巻高校生6人が参加しました。

サンタクロースの衣装の生徒たちと青年会員は、事前に申し込んだ36人の子どもの家庭を訪問し、プレゼントを届けました。高松実生さん(1年)は「葛巻高校に入学したら参加したいと思って行った事だった。子どもたちの喜ぶ様子が見られて嬉しい」、藤田葵さん(2年)は「青年会の皆さんとたくさん話すことができて楽しかった。若者が地域に関わることで町が活性化すると思う」と話していました。